

昭和 年 月 日

ヲ啓蒙スル電報ヲ發電ス

時機稍々遅カリシモ其誠意ヲ多トス
今迄第二部長(先ニ右ノ如キ件ニ就キ
大臣ヨリニコタコトヒラルニ依リ)右ヲ許
可セザリキ

三陸海軍中失協定(軍政實施ニ關スル)
主任者間ニ於テ難産ニ難産ヲ重ネ
タル上遂ニ決定ス
但シ第一部長船舶運輸統制ヲ海
軍ニ於テ行フ件大ナル不満アリ
右部長會議ニ於テ審議セラル

0791

昭和 年 月 日

機 密 戦 争 日 誌

第二十班

四、前項陸海協定ニ方リ從來ノ如キ陸海内
ノ相剋摩擦ヲ避クル爲陸海両大臣
兩總長ヨリ全軍ニ共同ノ訓示ヲ出スベ
シトテ起案ス
權限(訓示)等ニ拘ラズ四名連署ノ歴
史的訓示ヲ出スベシト云フニ在リ
五、野村電到著乙案提示セル所ハルハ援
蔣中止ニ關シ之ハ援英中止要求ト同
様ナリトテ大イニ不満ノ態ヲ示シガ如シサモ
アルベシ
之ニテ交渉ハ愈々決裂スベシ芽出度

昭和六年十一月二日

一、陸海中央協定（軍制施行ニ関スル）主任者
案ニ對シ部長以上全然不同意ナリ更ニ
研究ヲ進ムルコトトス

二、連絡會議開催

對泰措置要領決定ス

開戦ニ関スル件ハ決定ニ至ラス更ニ修文スルコトトス

對米交渉ノ保障ニ関スル件ハ外相未ダ

事務當局ニ於テ審議不克分ナリトテ

審議ニ入ラス

外相ノ態度稍ニ増長ニアル氣味アリ

外相ニ對スル總理ノ政治力甚ダハ外ナリ

0793

昭和六年十一月三日

機密戦争日誌

第二十班

一、日曜トテ部内閑散ナリ
米大使ハル會談モ行ハス
二、對米交渉ノ峠モ茲數日中ナリ
願ハバ決裂ニ至ランコトヲ祈ル

212

0794

昭和十六年十一月二十日

一、米英南滿ト今談ヲ開始ス、蔣モ之ニ加テ
其真意決裂ヲ決意シタルヤ否ヤ等不明
右會談直後野村ハ今談開催米ニ四
日ニ正式回答(乙案ニ對スル)スベキモ、トテ
大体ノ意向ヲ述ブ
ハ帝國力平和的意圖ヲ明カニセザレバ交
渉ニ應ジ難シ(三國同盟ノ空文化ヲ要求ス)
二、援蔣停止ハ極メテ困難ナリ
三、帝國輿論ノ高壓的ナルニ對シ米國
民ヲ納得セシムルハ甚ダ困難ナリ

0795

昭和 年 月 日

機密 戦争 日誌

第二十班

二、武官電ニ依レバ先ヅ決裂衣、他ナシト云フ野村
電ノ空気を必スシモ然ラズ先ヅ喜ビタル
モ因ビ一憂アリ

援蔣停止ノ要求相手ニヒビキアルヤヲ憂フ
三、交渉妥結ヲ念願スル野村来栖ト決裂衣ヲ
念願スル陸軍特ニタツ謀本部ト正ニ正
反對ナリ當班ノ一喜一憂モ無理ナシ

四、地方長官令議開催

總理例ニ依ツテ訓示セルモ當班馬耳東
風ナリ總理強硬訓示ハ可ナルモ女結セ
ハ如何ニスルヤモウ芝居ハ驛山ナリ

213

0796

昭和六年十一月二十五日

- 一、米第二夜四國合談ヲ行ヒタルが如シ
野村ハル會談ハ行ハレス 米ヨリ電ナシ
二十五日モ既ニ過キ多東郷外相二十五日
迄ニ妥結ヲ目途ニシタルが如キモ今ヤ駄目
ナリ
- 二、年内南方軍總司令官飛行不能ノ爲
汽車ニテ征途ニル
幕僚モバウクトナツテ西下ス
- 三、モニコナル軍政ニ關スル陸海軍中是
協定幾多ノ問題ヲ殘ニテ決定ス

0797

昭和16年11月26日

機密 戦争日誌

第二十班

一、米大統領陸海首脳ト會談ス

和戰ノ決意成レリヤ

野村ハル會談行ハズ米首脳苦慮ヲ重
ネツツアルガ如シ

二、連絡會議開催セラレ大勢ハハ安堵セザ
ルノ空氣ナリ

十二月一日御前會議ヲ奏請スルニ決ス

總長保障條件ニ關シ發言ニ燃料

六〇〇万屯ノ件ハ明確ニ決定セルモ他ハ

ハ相俟ニマカセテ是レノ態度ニテ依然ハ
トミテハツキリセズ

昭和16年11月27日



一、連絡会議開催 對米交渉不成止

大勢ヲ利シ今後開戦ニ至ル迄ノ諸般手續
順ニ就キ審議決定ス

1. 十一月一日御前会議ニ於テ國家ノ最高意思
決定事前ニ連絡会議及閣議ヲ開ク

2. 十一月二十九日重臣ヲ宮中ニ招キ總理之下
懇々談ス

右ニ關シ御上ハ重臣ヲ御前会議ニ出席
セシメテ、如何ノ御意圖カレシガ如キモ總理
國務ハ責任見者ニ於テ決スルヲ可トスルニ日
奏上ス

0799

昭和 年 月 日

機密戦争日誌

第二十卷

3. 開戦、翌日宣戦ヲ布告ス

宣戦ノ布告ハ宣戦ノ詔書ニ依リ公布ス

右ノ樞密院ニ御諮詢アレサル日時ハ機密保持ニ布告ノ日トスルコトトス

ニ 果然米武官ヨリ來電

米文書ヲ以テ回答ス全ク絶望ナリト
曰ノ

1. 四原則ノ無條件承認

2. 支那及佛印ヨリノ全面撤兵

3. 國民政府ノ否認

4. 三國同盟ノ空文化

昭和 年 月 日

米ノ回答全ク高壓的ナリ而モ意圖極メテ
明確九國條約ノ面確認是ナリ
對極東政策ニ何等變更ヲ加フルノ誠意全
クナシ
交渉ハ勿論決裂セリ
之ニテ帝國ノ開戦決意ハ踏切リ容易ト
ナレリ其出度ク之レヲ佐トモスベシ
之ニ依リ國民ノ腹モ堅マルベシ國論モ
一致シ易カルベシ

0801

昭和十六年十一月二十八日

機密戦争日誌

第二十班

一、米ノ回答全文接受

内容ハ滿洲事變前ノ後退ヲ徹底的ニ要求
シテ其ノ言辭誠ニ至リ盡セリト之ヲヘシ

二、米ノ世界政策對極東政策何算變化

ナシ現状維持世界觀ニ依ル世界制覇
之ナリ

三、今ヤ戦争ノ一途アルノミ

216

0802

昭和十六年十一月二十九日

一、午前九時三十分ヨリ總理重臣ヲ宮中ニ招
集シ開戦決意ニ關シ説明諒解ヲ求ム
參集ノ重臣左ノ如シ
阿部、林、岡田、米内、若槻、廣田、平沼、近
原
二、更ニ御前ニ於テ重臣ト懇談ス
非戦論少カラス獨リ阿部、林、廣田ハ
首相ノ決意ヲ諒トセルグ如シ
他ノ非戦論者流ニ對シテハ總理、阿部
林、廣田力説得之ニ勉メ最後ニ於テ全
員同意シ政府ヲ鞭撻スル所アリ

0803

昭和 年 月 日

機密戦争日誌

第二十班

三、國久興亡ノ歴史ヲ見ルニ國ヲ興スモハ五月

年國ヲ亡ホスモハ老年ナリ

重臣連ノ事勿レバ理モ已ムナシ若槻、平

沼連ノ老衰者ニ皇國永遠ノ生命ヲ

托スル能ハス

吾人ハ孫子ノ代迄戦ヒ抜カンノミ

四、午後三時半重臣懇談終了

御上モ充分納得遊バサレタルガ如シ

引續キ連絡會議開催

全員異議ナシ對米英蘭戦争開戦ニ

決ス當班過去一年ノ足跡ヲ顧ミ誠ニ

217

0804

昭和 年 月 日

威假意皇太子七月二十六日次男產凍結
以來苦惱ニ苦惱ヲ重ネテ事途ニ茲ニ至ル境
五、開戦企圖秘匿ヲ如何ニスヘキヤヲ研究セ
ルモ現状推移ノ外名案ナシ
米未ダ戦争準備全クナシ
独ノ對ソノ戦争急龍衣以上ノ對米戦争急
龍衣正ニ成就セントス
先入主觀ノ禍害茲ニ最タリ
ヤンキーノ對日輕侮ニ旬日ヲ出デスシテ
思ヒ知ラシムラルベシ
六、對独伊強化ヲ正式ニ施策セントス

0805

昭和十六年十一月三十日

機密戦争日誌

第二十班

一、當班事既ニ成リ閑散ナリ

種村中佐原少佐午後銀座ニ散遊シ
映画ヲ樂シム遊行者極メテ多シ

ニ、ロースベルトノ回答「アイマイナリセバ當班
ハ本夜徹宵スベカリキ所極メテ明確ナ
ル強硬回答ナリシヲ以テ議論ノ沸騰ヲモ
ナリ電報ヲ讀ムコトモナリ悠々最後ノ
日曜ヲ送ルヲ得タリ

三、日滿華共同宣言ノ一週年記念ニ當リ
輿論昂揚セラル

218

0806